

令和4年5月12日  
13:00 から 14:00  
ZOOMにて  
定期巡回のクローバー

## 令和4年度第一回 定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービス

### 介護・医療連携推進会議会議録

出席者：内海（民生委員会長）（欠席）、西村（醍醐北部包括センター所長）、瓦葺（同和園訪問看護ステーション管理者）、浅田（同和園居宅介護事業所）、松井（ふれあいカフェトハウス）、星野（クローバー代表）、立脇（定期巡回のクローバー管理者）、嶋田（クローバー事務長）（書記）

#### （1）クローバー挨拶、構成員紹介（別紙：構成員名簿あり）

同和園訪問看護ステーションの管理者が瓦葺氏に代わっておられ、この度連携推進会議への参加を同意して頂きました。

代表星野より挨拶

定期巡回の事業所が京都市内18件になり三年前に比べて2.5倍になっている。しかし、そのほとんどが地域提供は実質ほとんど実施されていない状況になる。本来の定期巡回の目的からすると、少しずれてしまっているのではないかと憂慮している。

この間、事業所名を「定期巡回のクローバー」と変更し、「クローバー24居宅介護事業所」を開設し、社内の支援のネットワークを強化している。

居宅事業所からも良い評価を得ている。今後も「定期巡回と言えはクローバー」と言って頂けるように尽力していきたい。

#### （2）R3年11月～R4年3月の周知活動、職員体制、事業所の動きについて

##### ○山科出張所について

令和4年2月に開設。山科方面の定期巡回の事業所がないことと訪問介護事業所も少ないことから地域資源の貢献として無事開始することが出来ている。

##### ○クローバー24居宅介護事業所について

地域のニーズを理解し、どのようにすれば地域への支援を効果的に行えるのか、定期巡回の理解をより深めてもらうにはどうしたら良いかということを探求している中で令和4年3月から開設することが出来た。

薬剤師への研修を実施した際に、医療保険での介入になるためにケアマネ始め、介護保

険サービスとの連携が希薄になりやすいというご意見があった。日々の連携の実態としての率直なご意見はどうか。

西村・瓦葺：療養管理指導は、介護保険でも医療保険でも請求することが出来る。保険請求の種類によって連携が取りやすい云々があるとは思わないが、ケアマネに連絡をお願いすることもあるし、訪看が直接連絡することもある。連携の取り方は他と変わらないのではないか。

浅田：サービス担当者会議への招集も漏れてしまうこともある。毎月の報告書が来るが、薬の内容だけの方もいれば、訪問時の利用者の様子まで記載してくれる人もいる。後者の方だと担当者会議にも呼びたいと思えるという実態はある。お互いに利用者の情報をより共有しようという意識が重要ではないかと考える。

西村：数多くの情報がケアマネには舞い込んでくる。その中から精査して必要な情報を各事業所に連絡するのが本来の形ではあるが、理想を言えば各事業所が必要と思われる情報を必要な事業所へ連絡して情報の共有を図れる「チーム」を作っていくことがケアマネの目標ではないかと考えている。

○周知活動について複数枚参考資料あり。

コロナ禍においても最低月一回は居宅等に周知活動を行っている。

山科においては当初「定期巡回は使いにくい」と言われ、話も聞いてもらえない事業所もあった。少しずつサービスを分かって載けて話を聞いていただけ依頼も少しずつして頂けるようになっていく。

○現在の職員体制について

正職員（準職員）計9名      登録ヘルパー 6名（内夜専属3名）

弊社の職員体制としては、昨年度から入れ替わりはあったものの、人員数は変化なしの状態で推移している。

閉じているヘルパー事業所が増えているということや、帯で取るために3～4事業所を組み合わせる必要があり情報共有に苦勞する、という話を聞くが実態はどうか。

西村：数年の状況を見ると確かに閉鎖している話は聞くが今年に入って次々と、ということは聞かない。ヘルパーが足りない、高齢化が進んでいることは確かにあるが、新しい事業所が開設されていることも不思議な現象だと感じている。

浅田：男性ヘルパーが増えてきていて、利用者の受け入れも以前に比べると良くなっているという変化も感じている。

松井：サ高住とかに預けておられる方が、職員が6名くらい急に減ったりして、親を預けてて本当に大丈夫なんだろうか、という不安の声を聞く。介護に関わる人口は一定しかいないのに介護が必要になる方は増えていることを実感している。皆さん知っているようで介護のことをご存じないのだろうか、ということも良く感じる。サ高住に住んでいて、

外の在宅介護サービスを使うことが出来るということも知らないのだと思う。それも知って入れば、職員が少なくなったサ高住でも安心してサービスを継続して受けられるのではないか、と感じた。

### (3) サービス利用状況 (別紙あり：資料①)

- ・現在の連携訪看 12件 前回より 3件増加
- ・居宅件数 31件 前回より 14件増加

昨年一年は、相談も少ない状態が続いたが今年に入って40件の相談を頂き、新規契約も頂いている。平均要介護度が3.4となっており、重度の方のサービスという印象が強いのかもしれないが、要介護1,2でも服薬がきちんとできることで元気に長く在宅生活が出来る支援も定期巡回がお役に立てるのではないかと考えている。

### (4) コロナ禍における地域の現状、及び醍醐地区の様子

入院中の方の新規情報が全くなく、情報がないまま依頼が来ることが多い。どこで情報が止まっているのか？

西村：情報が止まっているということではなく、話が来たタイミングのことだと思うので、こちらが求めれば病院はきちんと情報をくれると思う。

浅田：ヘルパーの獲得が一番頭を悩ませること。早め早めに動いて獲得しないことには前に進まない。もちろん支援のイメージを作って依頼はかけていくのであるが、先にサービスの確保をしないと、という意識もある。

こちらから欲しい情報を具体的に希望していくことが大事である。

ご意見をください。

北部包括 (西村氏)

散発的にDSが休業することが続いていたが、徐々にその状況も少なくなってきたような印象がある。地域の活動がなかなか出来ないという実態が2年続いていたが、ようやく断続的ながら再開する動きが出ている。

同和園居宅介護支援事業所 (浅田氏)

搬送などたらい回しなどは随分少なくなっているようには思うが、発熱があるとそういった事態になる可能性があるため、救急外来に直接行った方が良いというアドバイスがあった。

同和園訪問看護ステーション (瓦葺氏)

病院側の対応は変わってはいないが、訪看はどこが発熱外来を持っているかなどを把握しており発熱がある場合は希望している搬送先に行けないことも見越して事前に話をして救急車を待つということもしている。搬送先が決まるまでの時間も以前に比べるとスムーズになっているように感じている。

トトハウス (松井氏)

カフェに来られる方を見ていると、少し意識が緩んでいるように感じることもある。デイサ

ービスが休業したりで家族としてどうしようと不安に思われるケースがたくさんあったが、ここに来てそういう話も少し減ってきているように思う。

#### (5)連携事業所として医療からのご意見

瓦葺氏：利用者の状況の報告や相談も密にしてもらえているので、お任せしている部分もあることが大きい。搬送に至るまでの報告連絡および対応までもスムーズに出来ていると思っている。

#### (6)自己評価・外部評価について

ホームページにも記載しているので、ご参照頂きたい。

#### (7)BCP 対策委員会、感染症対策委員会、虐待防止委員会設置、マニュアルの作成・進捗状況について

LINE ワークスを用いて職員の安否確認を出来るように構築しているが、利用者の安否確認について、本来なら救急隊の要請をするような状態を発見した際に、どこに連絡すれば良いのか？

瓦葺：訪看が入っているのであれば、訪看に連絡をしてもらえればトリアージを参考にして動く。

西村：地域・自治体が任意で緊急連絡先の設置をしているケースもあるが、一体的にされているわけではない。

「個別避難計画」というものを作成することが今年度から京都市全域で始まっている。地域を選定して重度の要介護者から作り始めるという動きになっている。ケアマネージャーが作成することとなっている。

#### (8) 重要事項説明書の変更について

毎年4月に人員の変更等をご利用者やご家族にお知らせしています。この度、ハラスメントにおける項目を記載した。説明し承頂き、署名頂いた上で一部交付を行っている。

#### (8) その他

R4 年度第 2 回 介護・医療連携推進会議 ：令和 4 年 10 月に予定しております。

ご協力をお願いいたします。

山科でも同様の集まりを9月頃にできればと考えている。

以上